

香川県内の3個体群のコナガの数種殺虫剤に対する感受性の比較

佐々木善隆

1983年に香川県内の多度津,飯山と三木から採集したコナガ個体群について各種殺虫剤に対する感受性を検討し,飯山は1980年の個体群についても検討した。

各個体群とも多くの薬剤の LC_{50} が高かった。 LC_{50} が500ppm以下であったのは多度津と三木個体群に対する phenthoate,飯山個体群に対する pyrimiphos methyl,飯山と三木個体群に対する diariphos のみであった。各個体群に対する pyrethrins と fenvalerate・malathion の LC_{50} は小さかった。

cyanophos,dimethylvinphos,isoxathion に対する抵抗性比は著しく大きく,個体群間差異は小さかった。又 prothiophos に対する抵抗性比も大きく,個体群間の差異は最高で3倍みられた。

dichlorvos に対する抵抗性比は17~22倍で個体群間差異は小さかったが phenthoate と pyrimiphos methyl に対するそれは個体群間の差が大きかった。一方 dialifos に対する抵抗性比はいずれの個体群も小さかった。

飯山個体群は1980年から83年の3ケ年で pyrimiphos methyl と cyanophos に対し急速に抵抗性を発達した。しかし dichloivos に対する抵抗性はこの間に3.3倍発達したに止った。